



新十津川望郷会

会報

創刊号

会報の創刊にあたって



新十津川望郷会会長
山本 敬一郎

木々の緑もあざやかさを増す季節を迎えましたが、会員の皆様にはお元気で過ごしのことと存じます。

新十津川望郷会は、昭和五十年に新十津川出身で町外で活躍されている有志の方々が協議された結果、町当局の温かいご配慮を頂いて「誇り高き郷土新十津川町との所縁を心として常に精進し、その精神を子孫に伝えるとともに、郷土との親交並びに会員相互の親睦及び共励を図る」ことを目的として設立されました。以来本会は、歴代会長さんを中心に活動を続けて今日に至っていますが、時代の急激な変遷と、構成する会員の世代交代によって、故郷に対する思いも次第に多様化しているように思われます。しかし時代は変わっても、朝夕仰いだピンネシリの山並み、ロマンに満ちた誇り高き歴史と伝統、緑豊で人情篤きわが故郷は、新十津川出身者の大きな心のよりどころとなっているのではないでしょう

か。

故郷に寄せられた先輩の皆さんの切々たる思いを、なんとかして生かしていきたい。会員相互の横の繋がりをもっと深めていきたい。望郷の思いを次の世代に長く引き継いでいきたい。

お一人お一人の皆さんの「点」と、新十津川望郷会が会報の「線」によって一層強く結ばれることを心からねがって創刊のご挨拶に代えさせて頂きます。

望郷会会報の発刊にあたり



新十津川町長
安藤 君 明

この度の望郷会会報の発刊を心よりお祝い申し上げます。

会員皆様の情報網として会報の発刊を企画されました、山本会長様始め役員の皆様のご努力に敬意を表します。

発刊に当たり、山本会長様より

「新十津川町の近況をお知らせ願いたい。」旨のお話を承りましたので、紙面をお借りしご報告いたします。

昨年は、本町の基幹産業であります農業にとりましては、大変厳しい年であり

ました。米価の大幅な下落により農業所得が落ち込み大きな打撃を受けました。然し、「きらら397」にかわる品種として、新品種「ほしのゆめ」が普及しつつあり、消費者からも好評を得ていることは、今後の農業の発展に大きな期待を抱かせるものであります。道路網の整備では、大和地区と滝川市を結ぶ「平成橋」が昨年十一月に完成いたしました。また、役場前から総進にいたる「道道学園停車場線」の拡幅整備もほぼ終了し、沿線の商店も近代化を進めております。

さらに、永年にわたり整備をすすめております「ふるさと公園」内に、パークゴルフ場を整備いたしましたので、皆様のご来園をお待ち申し上げますと共に、宿泊施設として「サンヒルズ サライ」が本年二月から営業を開始いたしました。宿泊人数は五十八人となっておりますので、皆様のご利用とご愛顧をお願い申し上げます。

一方、町民の方々の自主活動も活発となっており、女声コーラスグループ「アザレア」の皆さんは、昨年札幌市で開催された「第二〇回全日本おかあさんコーラス全国大会」に北海道代表として出場し、大いに活躍されましたし、地元商店街の皆さんが中心となって、六月に開催しております「陶芸祭り」も定着し、出展者は全道各地から参加していただいております。また、若い人たちが中心となつて結成した、太鼓グループの「徳富太鼓

会」及び神輿担ぎグループの「玉置会」の活動も盛んになっており、新しい地域活動が展開されておりますことも特筆すべきことと思えます。

以上近況をご報告申し上げましたが、今後とも皆様のご支援をご頂戴しつつ、新十津川町の発展に全力を傾注いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様の益々のご健康とご発展をお祈り申し上げます。ご挨拶いたします。

望郷会会報の発刊を祝して



新十津川町議会議長
久保田 文雄

町議会を代表いたしまして、今回の望郷会会報の発刊を心よりお祝い申し上げます。

予々望郷会情報誌の発刊が話題となつておりましたが、山本会長様始め役員皆様のご努力により創刊されましたことは大変意義深いことと存じます。

私も望郷会の役員会に出席をいたしておりましたが、皆様にお会いするたびに大変お懐かし、話に花が咲き、つい時間の経つのを忘れてしまうことがございました。今日では各市町村において「〇〇出身の会」あるいは「〇〇郷土の会」の設立が話題となっておりますが、我町の望郷会は正にその魁けと申せましょう。先人のご努力と先見の明に改めて敬意を表するものでございます。そして連

錦としてその会を発展させておられる山本会長様始め役員の皆様、会員の皆様のご尽力に最大の讃辞を送らせていただきます。

さて、望郷会の構成人員を拝見いたしますに、お若い方の加入が少ないことが多少気になるところでございます。かつては児童生徒の数もたいへん多く、町内各地にそれぞれ小学校、中学校がございましたが、現在は小学校四校、中学校一校となっております。少子化の時代を迎え、今後児童の数は益々減少してまいります。この子供たちの為にも望郷会の存在は今後益々重要性を増すことでありましょう。皆様のお力をもって是非お若い方の入会を実現させていただきたく存じます。私も議会といたしましても及ばずながら応援をさせていただく所存でございます。

十津川村出身の詩人 野長瀬正夫先生は「望郷」と言う詩の中で「ふるさととは空にただよう白い雲 目に遠く心に近く 消えては浮かぶ白い雲」と詠んでおられます。故郷をもっていると言うことが如何に貴重なことか、またその故郷に住まいをし、生活をしている者にとって、故郷を応援してくれる人が居るといことが如何にありがたいことかを改めて考えている昨今でございます。

望郷会の今後ますますのご発展と皆様のご健勝をご祈念申し上げ、会報発刊に当たったのご挨拶といたします。

平成九年度望郷会 総会が開催される

平成九年六月二十日、新十津川町農村環境改善センターにおいて平成九年度の望郷会総会が開催されました。

当日は会員四十三名の出席を得て、山本敬一郎会長挨拶の後、安藤君明新十津川町長より歓迎の挨拶を頂き、山本会長を議長に選出、直ちに総会の議案審議に入りました。

審議については、平成八年度の事業報告及び本会決算の報告、並びに会計監査報告がなされ原案どおり承認されました。



平成9年6月20日 望郷会総会



平成9年6月20日 開基107年開町記念式 (菊水公園)

続いて平成九年度の事業計画、収支予算について審議、執行部提案の議題が原案どおり議決されました。この中で、望郷会の会報を発行すべきとの議決がなされました。

総会終了後は、菊水公園へ移動、戦没者・物故功労者等の追悼式及び開町百七十年の記念式典へ出席しました。記念式には、遠く奈良県十津川村長野尻忠正様、村議会議長井村稔様も出席され、晴天のもと厳粛なうちに記念式が進行、山本会長の万歳三唱をもって式典が滞りなく終了しました。その後、本会懇親会・追悼式懇親会並びに開町記念式懇親会が合同で開催され、「新十津川物語」の原作者川村たかし様の祝辞の後、本会副会長丸



合同懇親会における川村たかし様の祝辞

谷金保様の乾杯の発声で祝宴がはじまり、終始和気藹々の内に宴が進行しました。

ステージでは新十津川踊り保存会の皆様の踊りが披露され、しばし昔の盆踊りを懐かしみました。

懇親会終了後は、新十津川町で用意してくれたバスに乗り込み町内視察に出発。町が整備を進めている「ふるさと公園」から、墓地谷道路を経て、花月(旧下徳富)の特別養護老人ホーム「かおる園」を見学、その後袋地沼を見学し、弥生(旧八区)を経由して役場に帰りました。参加した人たちは、平成十年六月二十日の本会総会における再会を約し、帰路につきました。

札幌新十津川 郷友会の歩み

札幌新十津川郷友会会長

岡本一郎

札幌新十津川郷友会、その生い立ちと、長い歩みの概略について触れてみましょう。

札幌市在住の新十津川及び母村出身者により、旧交を温めると共に親交を深め、相助け合うことを目的として、郷友会の結成を見たのが昭和六年五月にさかのぼります。

そのころの昭和初期に於ける経済界の大変調は、米価の暴落をきたし、農村不況の度合いを深めておりました。加えて昭和六、七年と冷害、大凶作、そして七年は石狩川の水害が猛威を奮った時期であります。

初代会長 白川 和助
副会長 北田 平助
大前 正雄
会 計 藤沢伊三次郎

会 員 三十一名

然し、戦争酣の昭和十八年郷友会活動は中断の止むなきに至りました。

昭和二十八年二月十八日、会再開の声が大となり、再会創立総会を開き、

会 長 北田 平助

副会長 次田 俊堯

千葉 義春

会 計 続木 彦吉

会 員 四十二名

こうした歩みを続けた当郷友会は、創立五十八年を迎える事となり、昭和六十年五月には、当郷友会『五十年の歩み』と題して、記念会誌を発刊、今後の新たな出発点を模索するための里程標としました。当会員は約三百名を数えております。

会は、毎年新春早々新十津川町長、

町議会議長、在札ゆかりの議会議長等来

賓のご臨席を得て、新年交礼会、総会を

開催、また郷土で開催される望郷会総

会、開町記念式典、懇親会に出席、終了

後は発展する町施設、ゆかりの部落巡りを

続けております。

現役員は次のとおりです。

顧 問 上杉 天道

佐藤 金雄

会 長 岡本 一郎(総進出身)

副会長 佐藤 貴(中央会会長)

和田 賢司(花月会会長)

谷本 彰(吉野会会長)

大久保宗利(大和会会長)

幹事長 増谷 俊秀(中央出身)

幹 事 岡田 功

古谷 恭子(旧姓 藤井)

木下 朋子(旧姓 植西)

佐藤 浪子(旧姓 森)

(以上中央出身)

監 事 中島 悠迪(中央出身)

尚、札幌市には当郷友会の外に、出身地域、部落を単位にして四つの郷友会が生まれ併存しております。

中央会(平成元年発足)

花月会(昭和五十六年発足)

吉野会(昭和三十年発足)

大和会(昭和四十八年発足)

そして当郷友会は前記の地域単位郷友会の組織活動には側面的に共励援助の立場をとっており、この事は絆を深めこそすれ、同郷人として違和感等は全くなく、近い将来大同団結による会の一本化

実現の機運が芽生えていることも事実であります。

又、会の中枢にあつて運営発展に尽くされて来た会員も高齢化の波はさけて通れず、会員漸減の兆候が生まれており、これに続く若い世代会員の加入が緊急の課題となっております。終りになります。吾が郷土新十津川町との所縁を心とする吾が会は、郷土の更なる発展を願うと共に、会員相互の親睦共励の実を高揚して各位のご期待にお応えしたいと存じております。皆様のご理解とご支援を頂戴できれば幸と存じます。



平成6年1月「メルパルクサッポロ」

花月会の歩み

花月会会長 和田賢司

札幌地区花月会(略称花月会)は、一年余の準備期間を経て、将補五十六年十月十八日に発足しました。会員は、花月地区に居住したところのある方で、現在札幌地区(周辺市町村を含む)に居住する希望者で構成しています。設立時の会員数は約四百五十人を数えました。

今年で十七年、毎年一回の懇親会を開催して、故郷を語り昔を偲んで楽しい一時を過ごしております。

本会の目的は、親睦を中心にしており、母校の周年行事への協賛や図書への贈などを行ってまいりました。

この種の会は、会員の関心がだんだんと薄らいで、会員の減少が起きているものです。花月会も同様で、「事業の魅力化を図らなくては」と考えております。やがて、発足二十年になることから、この機会に変わればと願っている昨今です。最後になりましたが、町長さんをはじめ町当局に多大のご協力をいただいていることに深く感謝申し上げます。

札幌地区花月会役員

(文責 高棹)

顧問 安藤 君明(町長)

(平成九年十月改選)



第8回 懇親会風景

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|-------------|-------------|
| 監事 | 幹事 | 事務局長 | 副会長 | 会長 | 塩崎 能宣(同窓会長) |
| 西館 正男 | 塩田 民江 | 山田 義男 | 高棹 政義 | 和田 賢司 | 大津 義守(初代会長) |
| | 山田 一枝 | 金戸 弘嗣 | 工藤 忠栄 | 隅田 なみ(前副会長) | 上杉 天道(二代会長) |
| | | 織田 健一 | 西田 みち子 | 田中 迪一(前副会長) | 栗山 正雄(三代会長) |

さっぽろ吉野会のこと

札幌吉野会会長 谷本 彰

望郷会のみなさん。私も「さっぽろ吉野会」は、札幌在住の町出身者の集まり「郷友会」に次いで、昭和三十年に「おのらの会」として、中垣隆政氏を中心にして発足した、歴史ある会です。今は故人ですが「玉置正明さん」が創立に尽力され、代表世話人をされていました。発足当時の世話人をされていました。発足当時の世話人(幹事)は、玉置さんの他

谷 完一さん(故人)
泉水 実さん(故人)
松尾 兼松さん(故人)
和久井政造さん(屯田のご自宅)
その後、菊田福雄さん(故人)と私も、会の運営のお手伝いを始めました。

吉野尋常高等小学校卒業の西徳富出身者が年一回は東区民センターに集まり、関係ある皆さんもお招きして、ささやかな手作りの宴を開き心温まる時間を楽しく過ごしました。

また、新十津川町の小学生と札幌東区の小学生との、里見峠下のキャンプ大会とか、札幌で剣道大会などの交流も行いました。

玉置さんのご努力で札幌東区民センターに、「吉野会コーナー」が設置されたのもこの頃ですが、平成九年に玉置婦人のご理解を得て、資料一切を町の郷土資料館に移管しました。「さっぽろ吉野会」は、ふる里「吉野小学校」八十八・九



平成8年7月 吉野会日帰り研修

十周年記念事業にも積極的に協力し、参加しました。年一回総会を開いています。また、吉野園を数度訪問して、僅かながらも会から寄付をさせてもらっています。今後も機会をみては訪問を重ねたいと思います。

現在の役員を紹介します。

会長	谷本 彰
副会長	菅原 清
幹事長	大江ふみ子
幹事(会計)	森下 勝義
(総務)	松尾 博
(総務)	中田 愛子
(総務)	上中 弘之
(総務)	熱田 文子です。

今後とも、何とぞよろしくお願ひします。

中央会

中央会会長 佐藤 貴

会 員

(一) 会員は、二百余名で新十津川小学校校区〔中央(菊水町、橋本町) 総進、学園、弥生等〕出身者です。
 (二) 会費は、年千円です。
 (三) なお、会員はすべて札幌郷友会の会員です。(発足当時の事情からです。)



中央会 懇親会

行 事

(一) 総会を花見の会とかねて、年一回実施しています。五十〜六十名位の出席です。当日は、安藤町長から町の現況を伺っています。また、会員も町長との歓談を楽しみにして、総会日を心待ちにしています。

役 員

顧問 前川 庄作
 会長 佐藤 貴
 副会長 斎藤喜志雄
 増谷 俊秀
 和平 康伸
 岡田 功
 古谷 恭子
 木下 朋子
 中川 省吾
 山道 光男
 佐藤 浪子
 中島 悠迪
 森永 正造

課 題

(一) 若い方の入会が少ないことです。
 (二) 広報「しんとかわ」を通じて郷友会・望郷会の活動を紹介していただければ、町との結びつきを強め、かつ、会員増加につながると思っています。

新しい試み

(一) 平成十年の新年会は、一月三十一



中央会 懇親会

発展をめざします

日、市内中央区「札幌すみれホテル」で行いました。
 (二) 今回は、郷友会・中央会・花月会・吉野会・大和会合同の新年会として開催いたしました。
 (三) 新十津川町出身者が一同に会しての歓談は、大変好評で盛会でありました。(出席者八十九名)

今回の行事を通し、各会員間の垣根を取り去り、一体感づくりの環境をすすめたいと思料します。この試みの成功から、引続き各会合同の行事を重ね、会の活動を充実させるべく努力を続ける所存でございます。

故郷に新しい宿泊施設が完成

お得がいっぱい!の【平日宿泊パック】

- レディースパック 6,980円
1泊2食+テニスなど13種類から2つの選択
- パークゴルフパック 7,800円
1泊2食+パークゴルフ+ワンドリンク
- 染物・織物体験パック 7,800円
1泊2食+染物&織物体験+ワンドリンク

～サライに泊まって
やすらぎのひとときを～

詳しくはお電話で
お問い合わせ下さい。



上記パックは全て日曜日から金曜日までのご利用とさせていただきます。3名様以上の料金です。
 2名様の場合は、500円増となります。
 日帰りパック、上記パック+飲み放題コースもあります。



新十津川町字総進188-5
 (ふるさと公園内)
 0125-76-3000

十津川会深川支部

支部長 杉村 修

十津川会深川支部の発足は昭和五十七年と記録されています。もともと深川には深川神社を中心にして祖霊会と言う組織があります。この会は凡そ百年前、十津川より移住した人達によって先祖を祭り、豊作に感謝する日として彼岸の中日に行われ、当然神道だった十津川出身者がその大半を占めて今も続いております。新十津川町役場に奉職の経験がある、元秩父別町長柴田清富氏がこの点に着目し、発起人となり各方面に働きかけ、新十津川関係の人々も加え、七月十二日発足を見たわけでありました。ただちに支部結成の報告をなし、昭和五十七年七月三十日挙行の望郷会総会・開町記念式に参加、発足加入が承認された次第であります。

現在の規定は創立当時のままですが、本部望郷会の規定に懇親をはかる事を加味した親睦団体を目指すと共に、今日ある先祖先人の苦勞に感謝の心を忘れず勤

めることを目標としています。

発足以来、各種の本部行事のほか、故郷訪問(昭和六十一年十三名参加)、深川市指定文化財芽生神社本殿の見学、東武顕彰碑参加など支部独特の行事も手がけています。最大の行事は、十二月一日恒例に決定している、懇親会兼忘年会です。ただ集まるだけでなく、小一時間程の学習会を持っています。

平成元年、「グリーンパークしんとかわ」に会場を移し一泊、当時の山口町長の出席をお願いし、お話をいただき懇親を共にするなどの活躍も思い出の一つであります。平成九年の懇親会兼忘年会には、河野深川市長ご夫妻と市の企画課長をゲストに迎え、新装なった都市農村交流センター「まあぶ」を会場に家族夫婦併せて二十七名が集い、市の将来展望の話に真剣な討議をかわすなど盛会でした。

役員構成は

会長(支部長) 杉村 修

副会長 上垣 武寛

上中 薫

事務局 田中 利一

他 理事の構成となっております。



平成9年12月 深川支部 懇親会 (忘年会) 「都市農村交流センターまあぶ」

望郷会会報

発刊によせて

さつぽろ大和会会長 大久保 宗 利

新十津川望郷会会報の発刊を心からお祝い申し上げます。

さつぽろ大和会は、昭和四十八年五月に会員三十余名の出席を得て、初代会長に清水金弘さん、事務局長石本料詰さんを選出して「さつぽろ大和同郷会」を創立しました。その後、春と秋にビール会、観桜会、ジンギスカン会等々の行事を行い、ふる里出身者の情報と名簿の整理をし、昭和五十三年十月に会員の協賛を得て、「ふる里を同じくする者ここにあい集う」の合言葉の元に「さつぽろ大和同郷会誌」を発刊しております。

昭和五十八年九月、二代目会長に佐川昭さんが就任され、創立十周年記念を機に会旗を作成、記念祝賀会を開催しました。ふる里から町長、大和小学校長、たきかわ大和会、郷友会、各地区会から来賓者の出席を得て華やか、かつ、盛大に行われました。また、十年目を期して名称を「さつぽろ大和会」と改め記念誌を発刊しております。そのあと、佐川会長が不慮の事故に遭い、終焉されましたので、三代目会長に石本料詰さん、事務局長鈴木勇さんを選出して毎年秋に総会・

懇親会を開催しております。

平成元年十月に四代目として不肖私が会長に就任、事務局長の鈴木勇さんとコンビをくみ、平成五年九月の創立二十周年を迎えることになりました。各相談役、役員の協力を得て、名簿を改定して、記念誌を発刊しました。また、二十周年記念祝賀会を開催し、安藤町長、久保田議会議長、真島町議、川西小学校長、吉田PTA会長、郷友会、各会の来賓者のご臨席を得て、祝賀行事が盛会裡に行われました。毎年秋に総会・懇親会を開催して「ふる里」の話に華をさかせております。

現在の役員

- 相談役 堀川 源蔵
- 石本 料詰
- 鈴木 勇
- 会長 大久保宗利
- 副会長 片桐 輝幸
- 高桑 和幸
- 及川 由喜
- 松葉 清
- 小林 和子
- 今野 義雄
- 田崎 勝利
- 田中 幹人
- 富田 正美
- 宇津井厚子
- 事務局長 田中 幹人
- 監査役 今野 義雄
- 田崎 勝利
- 田中 幹人
- 富田 正美
- 宇津井厚子
- 会計部長 松葉 清
- 小林 和子
- 今野 義雄
- 田崎 勝利
- 田中 幹人
- 富田 正美
- 宇津井厚子



平成9年10月 大和会総会 「さつぽろすみれホテル」

望郷会砂川支部

砂川支部長 山本 敬一郎

一 支部役員

支部長 山本敬一郎(日進)
副支部長 竹田 恵一(中徳富)

上杉 一正(橋本町)
丸谷 義彰(下徳富)
工藤 治雄(盤之沢)
小坂 実(橋本町)

野沢 清(中徳富)
池田 外雄(下徳富)
盤井 登(中徳富)
村上 新一(下徳富)

永沢 義人(下徳富)
中川 貞男(上徳富)
白鳥 正三(幌加)

顧問 及川 芳吉(日進)
幹事(事務局長) 前谷 正美(下徳富)

二 平成九年度総会

当支部の平成九年度総会は、平成九年六月十一日、砂川市柳通りの「大漁」で、新十津川町谷口収入役を迎え、会員十八名が出席して開催されました。

一昨年(平成八年)は、新十津川町のご配慮をいただき支部総会の前に全員でピンネシリ登山をしてから、「グリーンパークしんとつかわ」に新十津

川町小畑助役を迎えて総会を開催したのですが、あこがれのピンネシリ山頂からは、その時間帯、私たちの住む砂川方面は雲に遮られて、残念ながら展望することができなかつたので、支部創立二十周年に再度登山をしようと言うことに一致しました。

なお、山頂の鉄製の神社社殿は、丸谷副支部長の祖父が寄進されたものですが、風雪に耐えてきたため、かなり老朽してしまいました。

丸谷副支部長から、新十津川観光協会の皆さんにより、改築が決まったとの報告があつたのも嬉しいニュースでした。



平成9年6月 砂川市 「大漁」

新十津川望郷会役員名簿

役職名	氏名	住所	電話番号	備考
会長	山本 敬一郎			砂川支部長
副会長	安田 麻夫			郷友会会長
	岡本 一郎			
	寺阪 友義			町議会議長
	丸谷 金保			札幌吉野会会長
	久保田 文雄			札幌花月会会長
理事	谷本 彰			札幌大和会会長
	前川 庄作			
	和田 賢司			
	大久保 宗利			
	玉置 能夫			
	増谷 俊秀			郷友会中央会会長
	佐藤 貴			
	柳沢 隆義			
	藪内 英之			
	辻本 弘道			
監査	高崎 光雄			町長
	安藤 君明			
	上杉 天道			
	田中 由勝			

新十津川望郷会への連絡先《各種連絡先、原稿送り先など》

〒073-1103 新十津川町字 中央301番地1 新十津川町役場内 総務課長 東 勇
TEL 0125-76-2131 FAX 0125-76-2785

編集後記

望郷会各支部の皆様のご協力を賜り会報の発刊にこぎつけました。皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。

さて、来年の発刊に向けて今から準備を進めております。来年は、会員皆様の近況などを掲載したいと思っております。また、文芸なども大歓迎ですので奮って投稿して下さい。

連絡は事務局までご一報下さい。

新十津川望郷会会報 創刊号

一九九八年六月二〇日発行

発行 新十津川望郷会

〒073-1103 新十津川町字 中央三〇一番地一

新十津川町役場内

事務局長(新十津川町助役) 小畑 荘一

印刷 プリントショップマルヤマ

〒073-1103 新十津川町字 中央十八番地一八四

☎(〇一二五) 七六一二一三一